

第2節 環境情報の収集・提供

1 科学的調査研究と技術開発の推進

(1) 環境分野の調査研究

県では、衛生環境研究センターを中心として、大気汚染や水質汚濁等について、監視・調査等を行うほか、他の公設試験研究機関と協力して環境分野の

調査研究を進めています。環境分野の調査研究は、対象となる範囲が広く、また短期間では成果を出しにくいことから長期的な視点で行う必要があります。

図6-2-1 環境分野の調査研究

①衛生環境研究センター【環境政策課】 大気や河川・湖沼・海域および地下水等の環境汚染の発生や拡大を防止するための測定や調査研究、環境関連技術の開発	
○福井県における残留性汚染物質（POPs）動態解明と低減化に関する研究 【平成26～28年度】	難分解性や生物への有害性が高いPOPsである臭素系難燃剤（HBCD）について、県内における汚染実態と排出要因を明らかにします。
○福井県におけるPM <sub>2.5</sub> 高濃度時の挙動解明に関する研究 【平成26～28年度】	県内のPM <sub>2.5</sub> が高濃度となる条件・要因を解析し、適切な県民への注意喚起に役立てます。
○湖沼中の難分解性有機物に関する挙動解明に関する研究 【平成26～28年度】	微生物に分解されにくい難分解性有機物について、三方湖における分解挙動や分布状況を明らかにします。
○跡地利用された最終処分場における安定化に関する研究 【平成26～28年度】	埋立地に太陽光発電施設を設置した最終処分場の汚水の水質分析やガスの発生挙動などを調査し、安定化の進行に及ぼす影響を明らかにします。
○微小粒子状物質（PM <sub>2.5</sub> ）の環境中の挙動と発生源の寄与に関する研究 【平成26～29年度】	大陸からの越境大気汚染が考えられるPM <sub>2.5</sub> の成分調査を実施し、高濃度原因を明らかにするとともに地域に応じたPM <sub>2.5</sub> 対策に役立てます。
○福井県におけるオキシダント高濃度予測手法の構築 【平成27～28年度】	福井県独自のオキシダント高濃度予測手法を確立し、光化学スモッグによる健康被害の防止に役立てます。
○水質事故対応時の多項目迅速分析法に関する研究 【平成27～28年度】	事故原因特定のために実施する農薬および金属類の機器分析について、分析の迅速化と省力化を目指します。
②工業技術センター【地域産業・技術振興課】 県内産業の活性化に向けた様々な分野の研究開発、環境関連技術の開発	
○熱可塑性繊維とリサイクル炭素繊維による不織布製造技術の研究 【平成26～28年度】	リサイクル炭素繊維と熱可塑性繊維を混合し、物性に優れ、安価に複合材料化できる熱可塑性複合材料用繊維素材を開発します。
○定置型蓄電システム用超高速回転CFRPフライホイールローターの開発 【平成26～28年度】	太陽光発電用の小容量短時間充放電小型フライホイール蓄電システムに必要な炭素繊維複合材料を開発します。
○櫛形電極センサの開発研究 【平成26～28年度】	櫛形電極の電気化学反応を応用した、金属腐食原因物質や細菌等の有害物質と反応するセンサを研究開発します。

分野別施策の  
実施状況

横断的・基盤的な  
施策の推進

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

<b>③建設技術研究センター【土木管理課】</b> 本県の自然条件および経済社会条件を踏まえ、環境負荷の少ない雪対策技術や自然との共生、リサイクルの推進に対応した建設技術の研究開発	
○マイコンを使った積雪センサーの開発 【平成26年度～28年度】	路面の状況を的確に把握して稼働させる積雪センサーを開発し、従来の降雪を検知するセンサーに比して稼働時間の短縮を図ります。
<b>④農業試験場【生産振興課】</b> 化学合成農薬や化学肥料の使用量を抑えた環境にやさしい農産物の生産・供給のための研究開発	
○直播圃場で多発する新型ニカメイガの被害を減らす総合的防除技術の確立 【平成25年度～27年度】	○直播圃場で多発する新型ニカメイガの被害を減らす総合的防除技術の確立 【平成25年度～27年度】
○生き物にやさしい“ポストこしひかり”特別栽培技術の確立 【平成26年度～29年度】	○生き物にやさしい“ポストこしひかり”特別栽培技術の確立 【平成26年度～29年度】
○水田でできるブドウの減農薬・減化学肥料のポット栽培技術の開発 【平成27年度～30年度】	○水田でできるブドウの減農薬・減化学肥料のポット栽培技術の開発 【平成27年度～30年度】
<b>⑤総合グリーンセンター【森づくり課】</b> 多様な森林の育成や保護管理技術など環境関連技術の研究開発	
○人工交配による県産無花粉スギの開発 【平成23年度～29年度】	花粉症軽減対策として、県内精英樹と県外無花粉スギとの人工交配による県産無花粉スギを作出します。
<b>⑥若狭湾エネルギー研究センター【電源地域振興課】</b> バイオマスを用いた湖沼の水質浄化、有用物質生産や水素製造技術等に関する研究開発	
○バイオ技術を用いた汽水湖沼の浄化 【平成27年度～平成28年度】	イオン加速器による品種改良で作り出した耐塩性の陸生植物や高機能微生物を用いて、汽水を含む水域の富栄養化物質を吸収する技術の開発を行います。
○農林水産廃棄物の加熱分解による有用物質の生産 【平成27年度～平成28年度】	木質バイオマス、もみ殻、海藻など広範囲の農林水産廃棄物を加熱分解により減容するとともに、エネルギーや化学原料等の資源として活用する技術の開発を行います。
○水素製造等に関する新技術・システムの調査研究 【平成28年度～平成32年度】	加速器からのイオンビーム照射や太陽炉による酸化還元技術を活用し、環境に対する負荷が低い水素の製造・輸送・貯蔵に関する先進技術の調査研究を行います。

**(2) 産学官による研究開発支援【電源地域振興課、地域産業・技術振興課】**

県では、嶺南企業等が、原子力・エネルギー分野をはじめ、地域産業の活性化や環境分野に関連して新たに取り組む研究開発を支援しています（公益財団法人若狭湾エネルギー研究センターの「嶺南地域新産業創出モデル事業」による支援）。

- 嶺南地域新産業創出モデル事業補助金
  - ・オゾンを用いた工業廃水等の浄化システムの開発 【平成26年度～】
  - ・酸や水などの油劣化要素の除去技術を用いた油浄化装置の開発 【平成27年度】
  - ・野生動物による農作物被害の減少を図るため、小水力発電を利用した音波発生装置を開発
  - ・キトサン成長促進剤を使った屋上緑化ユニット専用の苔補修材を開発
  - ・土壌に含まれる自然由来の重金属（有害イオン等）を廃水から除去する吸着シートの開発 【平成28年度～】

また、公募型の研究開発費を活用して企業や大学が行うヒートパイプの研究開発に、公益財団法人若狭湾エネルギー研究センターが協力しています。

- 新エネルギーベンチャー技術革新事業 【NEDO】
  - ・気泡駆動型循環式ヒートパイプによる無動力地中熱源活用技術の開発 【平成23年度～24年度】
- 県内外の企業、大学、県が参画するe-テキスタイル製品開発研究会において、太陽光発電織物を用いた製品開発および事業化を目指しています。
  - ・スポーツウェア用太陽光発電テキスタイルの試作開発 【平成27年度～】

**(3) 環境関連産業に対する支援【産業政策課、企業誘致課、地域産業・技術振興課】**

県では、融資および補助などにより、環境関連ビジネス分野への新規参入や事業拡大に向けた取組みに対して、支援しています。

また、産業支援機関等と連携し、技術開発や経営

支援施策等に関する情報提供や相談・助言、公害防止や環境保全に必要な機械設備導入への支援などを行っています。

表6-2-2 環境関連産業に対する主な支援制度

支 援 制 度	問い合わせ先
○企業立地促進補助金・企業立地促進資金融資 製造業、試験研究所等を対象として、県や市町の誘致企業で、投下固定資産額や新規雇用者数等について一定の要件を充足する企業に、補助や融資を行っています。	県企業誘致課 企業立地推進グループ 電話 0776-20-0375
○専門家派遣事業 中小企業者の省エネルギーやコストダウンへの取組みを支援するため、専門家を派遣し、診断等を行います。 派遣費用の2分の1を負担いただきます（派遣費用の2分の1は支援センターが負担）。	公益財団法人 ふくい産業支援センター ふるさと産業支援部 電話 0776-67-7400
○産学官金連携技術革新推進事業補助金 この補助金は、県内中小企業が、大学・公設試等や企業、金融機関と連携して行う革新的な技術開発・試作品開発を支援し、研究成果の早期事業化と福井発の新たなビジネスの創出を図ることを目的とします。  【対象事業】 県内中小企業が、大学・公設試等や金融機関と連携チームを結成して行う技術開発・試作品開発、および販路開拓 【対象企業】 県内中小企業または県内中小企業を代表とする企業グループで、ふくいオープンイノベーション推進機構の設置目的、事業に賛同するもの 【事業期間】 1年（平成29年3月まで） 【補助率】 2/3以内 【補助限度額】 1,000万円/件 【補助対象経費】 消耗品費、機械装置費等の他、直接人件費、販路開拓費	県地域産業・技術振興課 電話 0776-20-0374

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

### (4) 県民・団体・企業等との連携の強化【環境政策課】

#### ①環境ふくい推進協議会

環境保全活動を推進していくためには、県民、団体、事業者、行政がお互いに協力し合い、取り組んでいくことが重要です。

このため、県では、県民、団体、企業で構成する環境保全ネットワーク「環境ふくい推進協議会」の運営を支援し、情報紙の発行やシンポジウムの開催などを通じ、環境保全に関する意識の啓発を図ってきました。

環境ふくい推進協議会は、県民が一体となって進める環境保全に関する県民運動を実践することを目的として、平成6年10月に設立された団体です。協議会では、環境保全活動の輪を広げるための様々な

事業を展開しています。

#### 環境ふくい推進協議会会員数（平成29年1月末現在）

企業会員	233 社
団体会員	115 団体
個人会員	1,017 人

また、環境ふくい推進協議会では、県内における企業、団体、行政等の環境に関する活動や情報の共有を図るため、専用のホームページを開設しています。このページでは、各主体が環境に関するイベント情報やお知らせを自由に掲載、閲覧することができ、情報共有の場として活用しています。

表6-2-3 環境ふくい推進協議会の主な取組み

主な取組み	平成28年度
環境保全活動促進協働事業	1 協議会会長表彰 2 ふくいまるごと環境学び舎 3 環境マネジメント推進事業 4 市町環境連携事業 5 こどもエコクラブ活動促進事業 6 SATOYAMA 国内ネットワーク推進
普及広報事業	1 情報誌発行事業「みんなのかんきょう」 2 ホームページによる普及広報 3 メールマガジンの配信による普及広報 4 環境教育の基礎となるガイドブックの作成
県補助事業	1 環境アドバイザー派遣事業 2 ものを大切にする社会づくり事業 3 ふるさと環境フェア開催事業
団体助成事業	環境ふくい未来創造事業



(URL <http://www.kankyofukui.jp/kankyofukui/skg/>)

図6-2-4 環境ふくい推進協議会ホームページ画面

(5) 環境に関する表彰

県では、地域で様々な環境活動を行っている個人や団体の努力に報いるため、また、今後の活動の励みとしていただくため、積極的に各種表彰制度に推薦しています。また、応募形式による表彰制度につ

いても、対象者等に情報提供などを行っています。  
平成27年度において表彰を受けた個人や団体等は、表6-2-5のとおりです。

表6-2-5 環境に関して表彰を受けた個人・団体・企業・学校（平成27年度）

表彰名	目的等	表彰者	被表彰者
環境美化教育優良校等表彰	環境美化に独創的、熱心に取り組み、食品容器の散乱防止やリサイクルの実践教育に優秀な成果のあった小中学校を表彰	社団法人食品容器環境美化協会会長	【優良校】 福井市森田中学校 (福井市)
環境ふくい推進協議会会長表彰	環境保全活動に関し、地道にたゆまぬ努力を続けている個人、団体、学校、企業で、その活動が賞賛に値する者を表彰	環境ふくい推進協議会会長	【個人の部】 村上 和子 (越前市) 【団体の部】 福井の海に親しむ会 (小浜市) 宮川地区生活環境整備委員会 (小浜市) 志比原区 (勝山市) 谷の山を愛する会 (勝山市) 【学校の部】 勝山市立北郷小学校 (勝山市) 勝山市立平泉寺小学校 (勝山市) あわら市北湯小学校 (あわら市) 【企業の部】 株式会社 新内 (福井市) ケイター・テクシーノ株式会社 (勝山市)
第14回ざぶん賞	生命の源である、水に関係した内容の作文・童話・詩・手紙を小中学生から募集し、すぐれた作品について表彰	ざぶん賞実行委員会会長	【福井県知事賞】 坂井市立春江小学校 富田 和真 (坂井市)
愛鳥週間用ポスター原画コンクール表彰	ポスターの制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間の普及啓発を図るため優秀作品を表彰	福井県知事	【知事賞】 森本 恵 (大野市富田小学校) 岡上 楓 (敦賀市立栗野中学校)

分野別施策の実施状況

2 環境情報の整備と提供【環境政策課】

県民や事業者の環境への関心を高め、環境への負荷の低減に向けた取組みを促進していくためには、環境に関する幅広い情報をわかりやすく、迅速に提供することが重要です。県では、インターネットや情報紙など様々な媒体を通じて、環境情報を提供しています。

このシステムは、大気や水質等の環境状況や自然環境等の情報をデータベース化し、地図や表などによりビジュアルに表示するもので、インターネットのホームページ「みどりネット」から利用できます。

みどりネットのアクセス件数（ページビュー）は、次のとおりです。

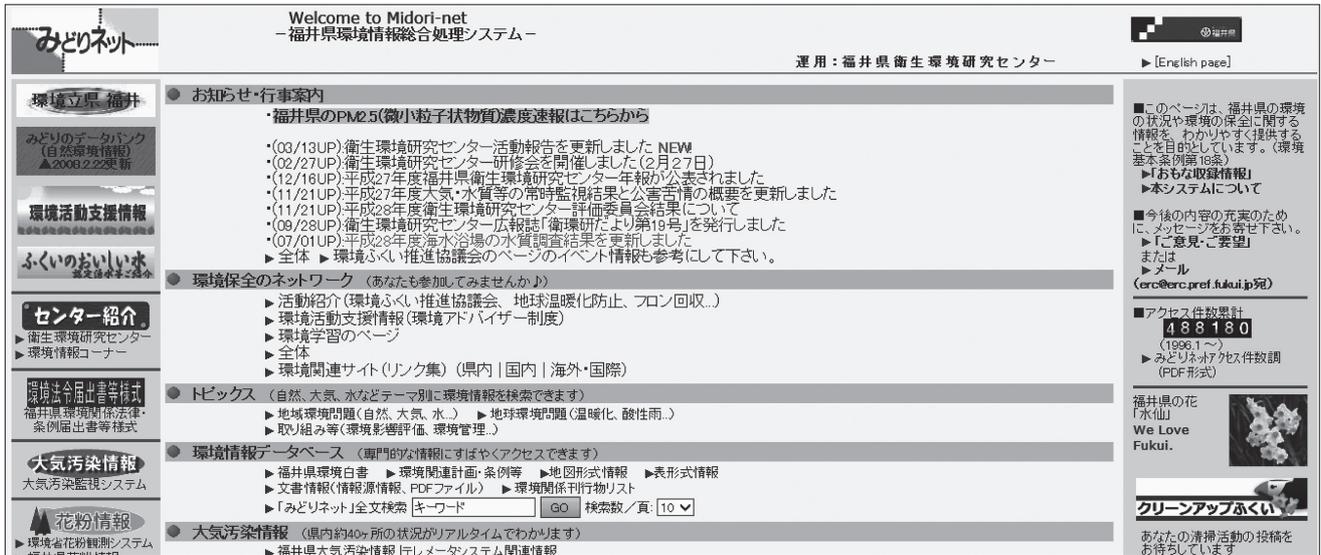
表6-2-6 みどりネットのアクセス件数

	25年度	26年度	27年度
アクセス件数	4,236,671	4,523,537	4,495,990

(1) 「みどりネット」の整備、運用

県では、各種の環境情報をデータベース化し、行政内部での活用にとどまらず、広く県民に提供する「環境情報総合処理システム」を平成12年3月に整備しました。

横断的・基盤的な施策の推進



(URL <http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

図6-2-7 環境情報総合処理システム（みどりネット）画面

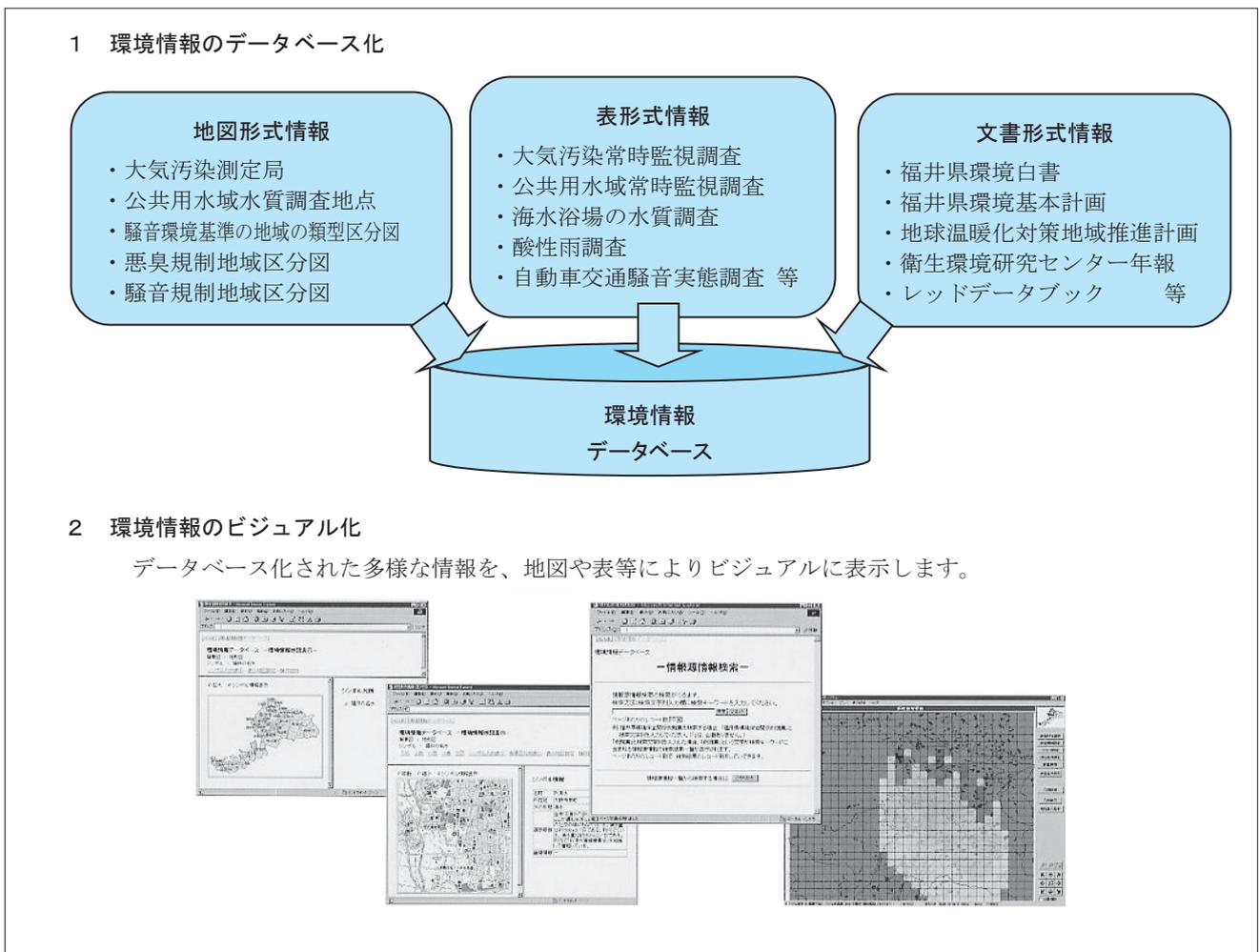


図6-2-8 環境情報総合処理システムの概要

## (2) 環境月間中のイベント情報提供【環境政策課】

環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」とされています。県においても、県民の環境問題への関心と理解を深め、環境の保全に関する活動を行う機

会とするため、6月を中心に様々な行事を実施するとともに、環境に関する行事を取りまとめ、ホームページ等で紹介しています。

表6-2-9 平成28年度「環境月間」の主な実施行事 テーマ「県民の手で守り育てる福井の環境」

【県民参加行事】

行事名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
カー・セーブデーの実施	交通まちづくり課	公共交通機関や自転車の利用促進とCO <sub>2</sub> (二酸化炭素)の排出量削減のため、過度な車の利用を控えるカー・セーブデーを実施する。	毎週金曜日	県内全域
クールビズの実施	環境政策課	冷房28℃と軽装(ノー上着、ノーネクタイ)勤務を実施する。	5/20(金) ～9/30(金)	県、市町、 賛同事業所
クリーンアップふくい大作戦	県、市町、環境ふくい推進協議会、(社)あすの福井県を創る協会等	統一行動期間に各市町が設定する拠点地区や居住地周辺、工場・事業場周辺等の一般地区において清掃、草刈、植栽、花だんづくりを行うなど、県民、各種団体、行政が一体となって美化活動を実施する。	統一行動期間 6/5(日) ～6/12(日) (季節ごとに 年4回実施)	県内全域
フラワーグリーンフェア'16 第6回みどりと花の県民運動大会	みどりと花の県民運動大会および第23回全国花のまちづくり福井大会実行委員会	第60回全国植樹祭を契機に展開している「緑と花の県民運動」を推進するための中心的なイベントとして、緑と花に関する功労者の表彰や、緑や花と身近にふれあえる様々な体験型イベントを実施する。	6/4(土) 6/5(日)	総合グリーンセンター
緑の教室	総合グリーンセンター	身近な緑づくりのための基礎知識が学べる講座を開催する。	6/4(土) 6/16(木)	総合グリーンセンター
花づくり講座	総合グリーンセンター	花を育てるための基礎知識が学べる講座を開催する。	6/11(土)、 6/12(日)、 6/19(日)、 6/26(日)	総合グリーンセンター
花のスクールステイ	総合グリーンセンター	花と緑にあふれるふるさと活動(花のスクールステイ)にて、スクールステイ花苗の育成指導を行う。	環境月間中	総合グリーンセンター
環境科学体験教室	衛生環境研究センター	環境科学に関する実験や体験をとおして、環境に関する意識の向上を図る。	6/4(土)	文書館

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

行事名	実施主体(所管)	内 容	実施日	実施場所
天体観望会	自然保護センター	自然保護センター周辺での観察会を通して自然環境についての理解を深める。	6月毎週土曜日	自然保護センター
自然観察会	自然保護センター	自然保護センター周辺での観察会を通して自然環境についての理解を深める。	6月毎週日曜日	自然保護センター
スノーケリング指導者養成講座	海浜自然センター	スノーケリング自然体験教室等のリーダー、サブリーダーで活躍している者のスキルアップ、新規にリーダー、サブリーダーとなる者を養成する。	6/18(土)～ 6/19(日)	海浜自然センター
スノーケリングをマスターしよう(初級)	海浜自然センター	スノーケリング未経験者が機材の利用方法などスノーケリングの基本を習得する。	6/26(日)	海浜自然センター
スノーケリングをマスターしよう(中級)	海浜自然センター	スノーケリングで若狭湾に生息する生きものを観察する。	6/26(日)	海浜自然センター

分野別施策の実施状況

### 【普及啓発事業】

行事名	実施主体(所管)	内 容	実施日	実施場所
広報活動	広報課環境政策課	新聞、テレビ、各種広報紙、ポスター等で月間の趣旨や、環境美化に対するPRを実施する。	環境月間中	県内全域
環境意識啓発パネル展	福井健康福祉センター	環境問題に関するパネル等を展示し、意識の高揚、啓発を行う。	環境月間中	福井健康福祉センター
環境のこと、考えてみませんか？	県立若狭図書学習センター	近年刊行された環境に関する本を約40冊程度集めたコーナーを設け、県民の皆様が環境について考えていただけるよう貸出に供する。	5/27(金)～ 6/22(水)	県立若狭図書学習センター
環境保全の調査研究展示	衛生環境研究センター	環境保全の調査研究をパネルやポスターで展示し、環境保全への取組みの周知、意識啓発を図る。	6/4(土)～ 6/7(火)	県立図書館

横断的・基盤的な施策の推進

## 【監視・指導強化】

行事名	実施主体(所管)	内容	実施日	実施場所
環境パトロール	環境政策課 各健康福祉センター	ばい煙発生施設、特定施設等を設置する工場・事業場の立入検査を行う。	環境月間中	県内全域
	循環社会推進課 各健康福祉センター	工場・事業場、自然公園、廃棄物処理施設、畜産施設、道路、河川、海岸等のパトロールを実施する。	環境月間中	県内全域
	自然環境課	自然公園内およびその周辺の違法行為等の監視を行う。	環境月間中	各国立公園・国定公園等
スカイパトロール	循環社会推進課 県警生活環境課	県警ヘリ「くずりゅう」による空から廃棄物の不法投棄等発見のための監視パトロールを実施する。	環境月間中	県内全域
環境犯罪取締り	県警本部生活環境課 県下各警察署	廃棄物の不法投棄、野外焼却事犯等の環境事犯の取締りを実施する。	年間	県内全域
大きさにびっくり! 湿地のギャングウシガエル捕獲大作戦!!	海浜自然センター	三方湖周辺での繁殖が著しい特定外来種「ウシガエル」の駆除体験を通して、環境保全について考える。	6/6(土)	三方湖周辺
合同路上検査	循環社会推進課	滋賀県との合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	6/16(木) 10/12(水)	福井県、滋賀県
		石川県との合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	6/22(水)	福井県
		岐阜県との合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	7/29(金)、 10/26(水)	福井県、岐阜県
		福井県税事務所との合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	10/19(水)	福井県

## ◆第2部 分野別施策の実施状況

### (3) 刊行物

#### 【環境政策課、循環社会推進課、自然環境課】

水、大気、自然、廃棄物等の様々な環境の課題や、県の取組み等について、情報紙やパンフレット等の刊行物の作成・配布を行い、環境に関する情報を提

供しています。また、これら刊行物の一部は、県や環境ふくい推進協議会のホームページ、みどりネットにも掲載しています。

表6-2-10 平成27年度 環境関連刊行物

刊行物の名称	発行状況	頁数	発行部数	備考
みんなのかんきょう	年1回68号	24	3,000	環境ふくい推進協議会情報誌
平成27年度版 環境白書	年1回	148	700	
平成27年度版 環境白書(資料編)	年1回	110	200	
平成26年度 公共用水域および地下水の水質の測定結果報告書	年1回	106	150	
平成28年度 公共用水域および地下水の水質の測定に関する計画	年1回	54	150	
産業廃棄物の適正処理と減量化・リサイクルのためのテキスト	随時	18	2,000	
福井県認定リサイクル製品パンフレット	年1回	12	1,200	
平成26年度衛生環境研究センター年報	年1回	128	350	
衛環研だより第17号、第18号	年2回	4	Web配信	
平成27年度福井県鳥獣保護区等位置図	年1回	図1枚	2,400	
ナチュラルリスト	年3回 75～77号	12	2,300 2,000 2,300	自然保護普及啓発誌
平成26年度年報(福井県自然保護センター)	年1回	31	500	福井県自然保護センター事業概要
海遊(活動の記録)第15号	年1回	42	HPで公開	福井県海浜自然センター事業概要
自然保護センター・海浜自然センター行事案内	年1回	2	14,000	
平成28年度カレンダー	年1回	1枚	2,500	
福井県自然保護センター研究報告 「キコニア第19巻」	年1回	41	550	
天体観測ガイド「夏」	随時	4	6,000	
自然保護センターリーフレット	随時	2	7,000	
「ふくいのおいしい水」パンフレット	随時	64	3,000	
福井県里山里海湖研究所リーフレット	随時	8	1,500	
福井県里山里海湖研究所年報2015	年1回	37	500	
福井ふるさと学びの森 紹介パンフレット	年1回	16	2,000	
生きもので感じる福井の季節	年1回	8	5,000	福井の生きもの歳時記体感事業 紹介パンフレット
海浜自然センターパンフレット	随時	8	30,000	